

齋藤修一郎の墓誌銘文（案）

齋藤修一郎

1855（安政二）年7月、越前国（福井県）府中の領主本多家の奥医師・齋藤策順、フミ夫妻の長男として出生。1875（明治八）年夏、開成学校法科1年終了後に、アメリカのボストン大学法学校に留学し、1878（明治十一）年卒業して法学士号を授与される。1880（明治十三）年秋帰国し、以後は、外務省・農商務省の官僚として、条約改正や朝鮮親交・殖産興業などにそれぞれ大臣秘書官などとして携わる。1894（明治二十七）年1月の農商務次官退官後は、鉄道会社や新聞社、そして米穀取引所や植民会社
の社長・理事長などとして実業界で活躍。官僚を退いた後も外交を天職と考え、終生雑誌などに論文を投稿し続け、時の日本外交のあり方について冷静な論評を展開した。最晩年には、満州植民地化は日米戦争を喚起し、敗戦と日本滅亡に至ることを強く警告する冊子出版を企画するも、志半ばにして病に倒れ、1910（明治四十三）年5月6日、55歳にて永眠。